

かいりん

第66号

2014年12月1日発行

発行者 林 明夫

足利市堀込町145

Tel 0284-72-5945

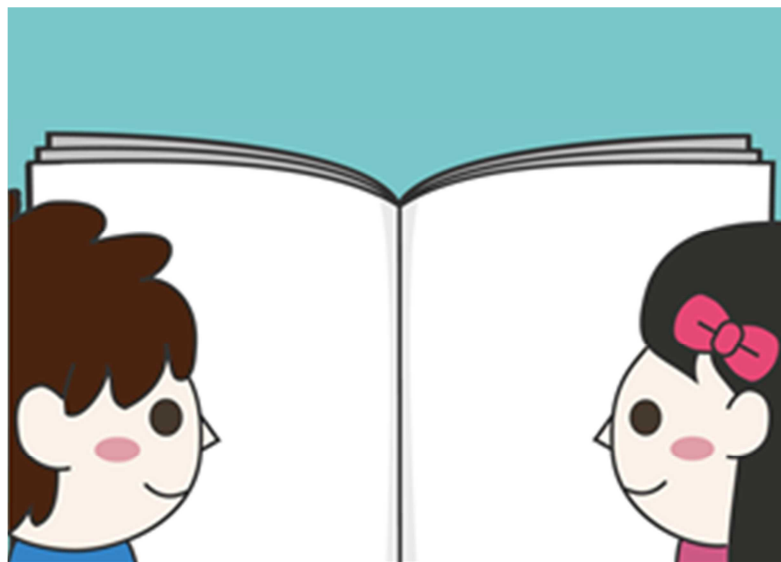
高い倫理の育成を目指して—15の躰プログラム— 12月「本をたくさん読もう」

1. 読書離れが進む現代

皆さんは1ヶ月にどれくらい本を読んでいますか。想像力を育み、いろいろなことを疑似体験するには、読書がうってつけです。しかし、現代ではゲームやPC、携帯やスマートフォンなど、子供たちが気軽に手に出来てしまい、そちらに興味がある子供が増え、読書離れが進んでいることも事実です。

2. 読書に親しもう

まずは本を手にとってもらうこと。本を読んだ感想を求めず、読書していることを褒めましょう。読書することで、言葉の深い意味や色々な考え方を読み取る力、集中する力、想像する力、連想、物事の先を読む力など、たくさん能力を育てることができます。まずは読んでみたい本を手にとり、読み始めることから始めるとよいでしょう。



冬期「ありがとう」の気持ちを伝えよう (オアシス運動)

1. 「ありがとう」という言葉の力

言葉には、大きな力が宿っています。特に、心のこもった「ありがとう」という言葉は、人を元気づけたり、勇気づける力を持っています。

大変なとき、辛い時こそ、何かをしてもらったら感謝の言葉を伝える、相手の気持ちを受けて、投げ返すキャッチボールが大切です。

2. 「ありがとう」をさがそう

普段の暮らしの中で「ありがとう」を言いそびれていること、当たり前を考えているけれど、いつもしてもらっていることはないでしょうか。家族や友達、お世話になっている人が自分のためにしてくれていること、ひとつひとつに気づくことは、難しいことですが、とても大切なことです。

身近な「ありがとう」をさがしてみると、自分がどれだけたくさんの人たちに支えられて生活しているか、気付くことができます。

小さなことでも、ひとつずつ感謝の心をもつと、自然とそのお返しをしたくなります。

それは、「してもらった本人に返す」ことが難しければ、自分ができるせいっぱいのことを、誰かにするだけでよいのです。そのとき、必ず心からの「ありがとう」が自分に返ってきます。

よい言葉もわるい言葉も、口に出した本人のところに必ず返ってくる、とされています。心からの感謝の言葉は、周りの人の力になるだけでなく、いつか自分に返ってきて、元気づけたり、勇気づけたりしてくれます。

身の回りの「ありがとう」をさがして、口に出して言ってみましょう。それは、自分と、周りの人を幸せにできる魔法の言葉なのです。

3. 「オアシス運動」

オアシス運動は挨拶の言葉の頭文字をとったもので、

オ「おはようございます」

ア「ありがとうございます」

シ「失礼します (失礼しました)」

ス「すみません (すみませんでした)」

を日ごろから言えるように心がけようという運動です。

日常から元気な挨拶をこころがけ、気持ちよい毎日を過ごしましょう。